

シンポジウム報告

第8回国際サツマイモシンポジウム

畑作研究領域 田中 勝

2018年9月5日～8日の日程で国際サツマイモシンポジウムが韓国の全州市にある農村振興庁で開催されました。この会議は日本、中国、韓国のサツマイモ研究者の情報交換や協力促進を目的に2004年に韓国で第1回目が開催されて以来、3か国の持ち回りで2年おきに開催されており、今回で第8回目を迎えました。会議には、日中韓3か国のほか、国際バレイショセンター（CIP）や米国、カザフスタンからも参加者がおり、合計で約130名が参加しました（写真）。日本からは農研機構、岡山大学、かずさDNA研究所、東京大学、南九州大学などから15名が参加しました。

会議では、開会式と基調講演に引き続き、一般講演（「遺伝資源・育種・栽培」、「生理学・バイオテクノロジー」、「生化学・加工」の3分野）と特別講演（「ゲノム科学」、「生物材料」の2分野と日中韓の若手研究者による講演）、およびポスター発表が行われ、活発な討議が行われました。CIPの研究者からは、日本や韓国の育種研究者に対して、アジア地域のサツマイモ育種ネットワークへの参加の呼びかけがあり、今後サツマイモ研究の国際協力がさらに活性化するかもしれません。会議の最後に総会が行われ、次回は2020年に中国の徐州市で行われることとなりました。



全体写真

サトウキビ国際ワークショップが沖縄で開催！

作物開発利用研究領域 安達克樹

2018年10月22日～26日の5日間、沖縄県恩納村の沖縄科学技術大学院大学にてISSCT（国際甘蔗糖技術者会議）の遺伝資源・育種分野と分子生物分野のジョイントワークショップが国内では初めて開催されました。今回のテーマは「Improvement of Sugarcane for Stress Environment」であり、20カ国・地域から113名の研究者・技術者が参加して（国外から77名）、最新の研究成果の発表と活発な議論が行われました。開会式では、農研機構九州沖縄農業研究センター大黒所長が、三つの共催機関の一

つとして挨拶を行いました（写真1）。九州沖縄農業研究センターからは樽本産学連携室長と服部主任研究員が発表を行い、さらに関連成果として、九州沖縄農業研究センターとトヨタ自動車(株)の共同研究の成果がトヨタ自動車(株)から、また共同研究の成果の解析を東京大学により深化させた内容が発表されました。それぞれの発表は聴衆からの高い関心を受けました。世界のサトウキビ研究者の生の発表を聞き、議論をすることにより、今後のサトウキビ研究への活力を高めることができました（写真2）。



写真1 大黒所長の挨拶



写真2 全体写真